

医療法人西厚会 西村歯科医院

# スマイル新聞

平成21年6月発行  
第6号

お口の健康を守るための新聞  
めざせ！ 8 0 2 0

～ 歯科医療最前線～

『歯を1本なくしたときは？』

～ 診療室からひとこと～

「インプラントのブラッシング」

～ お口の豆知識～

『親知らずについて』

# 西村歯科の目標

地域の人たちが、楽しく食事ができるお口の状態を維持していくことを歯科医学的な立場から支援していく。

## 基本的な考え

- 1、地域医療の提供(主に予防医学)
- 2、最良の医療技術の提供

## 具体目標

- 1、一般歯科治療を充実させる
- 2、専門性の確立
- 3、訪問歯科診療を充実させる
- 4、地域保健活動への積極的参加
- 5、障害をもたれた方の積極的な受け入れ

# 西村歯科でのインプラント治療の実際

## 前歯の欠損



治療前



治療後

歯冠が破折し見た目が悪い状態でしたが、天然の歯と変わらないくらい綺麗になりました。

## 一本の歯を補う治療法について

失われた歯を補う方法として **ブリッジ**、**一本の入れ歯**、**インプラント**の3つの方法があります

**ブリッジ**

**一本の入れ歯**



**インプラント**

自分の歯を削りたくない、金具が見えるのは嫌だ、しっかり咬みたい、という場合には上の写真のようにインプラントが最適と言えます  
インプラント治療を選択される場合はしっかりと診査をいたしますのでご安心ください。

## ブリッジ

### 利点

- ・見た目が良い(バネ(金属)が無い)
- ・保険適用

### 欠点

- ・虫歯でなくても、両サイドの歯を削らないといけない。
- ・虫歯でなくても、神経を抜かないといけない場合がある

## 入れ歯

### 利点

- ・歯をあまり削らなくて良い
- ・保険適用

### 欠点

- ・バネ(金属)が見える
- ・毎日磨く必要がある
- ・硬いものや繊維質のものを咬むのが苦手

## インプラント

### 利点

- ・自分の歯の様に咬める
- ・見た目が良い
- ・両サイドの歯を削らなくて良い

### 欠点

- ・保険適用外

インプラント手術は怖い、でも保険の入れ歯  
はちょっと・・・という方には

金属のバネを使わないので見た目や装着感がよい新しい入れ歯

## スマイルデンチャー

があります

- (特徴)
- ・薄く軽いので装着感が良い
  - ・金属のバネを使わないので見た目がよい
  - ・弾力があるので壊れにくい

スマイルデンチャー



保険の入れ歯



見た目が自然です

薄い！  
軽い！  
軟らかい！

興味をもたれた方はお気軽にお尋ねください！

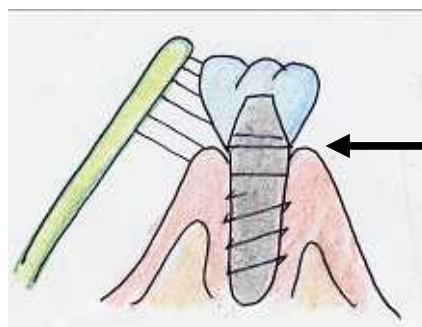
# ～診療室からひとこと～ インプラントのブラッシング

## インプラントを長持ちさせるために必要なこと

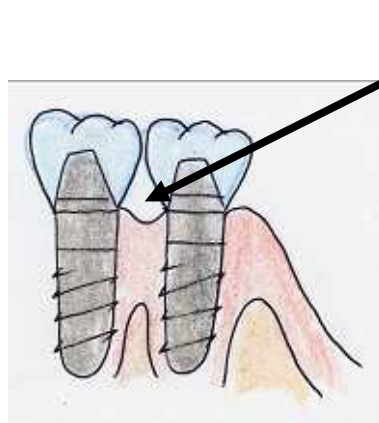
### 1、毎日の念入りな歯磨き

最も重要なホームケアが歯みがきです。  
指導された正しいブラッシングを行きましょう。

インプラントと自分の歯のみがき方の違い  
を図に示してみました。  
もう一度確認してください。



(歯と歯ぐきの間が自分の歯よりもみがきにくい)



(歯と歯の間が自分の歯よりも大きい)

### 2、歯医者さんでの定期健診

当たり前のことですが、インプラントには神経がありません。ですから、感染が起こっても自覚がありません。グラグラ動いてきたり、膿がでてはじめて気がつくのですが、こうなってからでは手遅れです。

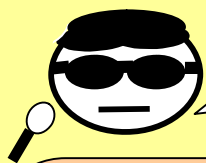
検診では、インプラントの状態、歯肉の状態、咬み合わせのバランスのチェックと、専門家(歯科衛生士)による歯のお手入れを行います。

1年以上検診を受けていない方は、これを機会に受診してください。

お待ちしております。

# お口の豆知識

～お口のとくダネ～



へえー  
へえー

親知らずは、抜かなきゃいけないの？

「親知らずの抜歯の基準」

親知らずを抜くか抜かないかは、親知らずが歯としての働き(咬む)をしているか、してないかで判断できます。

親知らずの咬みこむ相手の歯(上なら下、下なら上)が無かったり、斜めに生えていて、満足に咬むことが出来ないのに、虫歯や歯周病になって腫れたり痛くなってくる。このような時には、歯としての働きよりも、痛みや腫れるためだけに存在している事になります。このため、抜歯する可能性は高くなります。虫歯になっていても、歯としての働き(咬む)をしている場合には、虫歯が大きくなければ、治療して残すこともあります。

心配するよりも、まずは相談されてみて下さい。

## 編集後記

皆様ご無沙汰しております。

本日は今、巷で話題の新型インフルエンザにまつわる話をさせて頂きます。

日本で新型インフルエンザの感染が認められた頃、皆がこぞってマスクを買いに走り、薬局・薬店では「マスク売り切れ」の文字が躍り、駅や電車の中は一種異様に思える程マスクを着けた人々で一杯でした。しかし、この風景は外国ではあまりお目にかかれないうです。

欧米においては日常生活の中でマスクをすることはきわめて少なく、実際に花粉症のセルフケアとしてマスクをせよという方法が紹介されることすら少ないようです。そうしたこともあって、花粉症の時期に来日した欧米人が、街中で多くの人がマスクをしているのを見て、なにごとが発生したのかといふかるといふ話は有名です。

しかし、昔から欧米人はマスクをしなかったというわけではありません。大正時代に大流行した「スペイン風邪」の時欧米でマスクをするようになりました。その頃のマスクは巨大で、顔全体を覆うような布マスクでした。特にアメリカでは、当局よりマスクの着用を義務付けられた期間があり警察官や看護婦は市民の手下となるようにマスクを着用していました。

一般に日常生活の中でマスクをすることに抵抗がないのは日本をはじめとしたアジアの地域です。これらの地域と日本が決定的に異なるのは、風邪予防や流感に感染した患者がエチケットとして着用するといった習慣がないことです。地域によって考え方って異なるんですね。

